

仙台白百合女子大学

学修支援センター報

第 10 号

2023 年度



仙台白百合女子大学 学修支援センター

第10号(2023)

目次

発刊にあたって	神田 あづさ センター長	1
学修支援部門		
2023年度 学修支援センター報告		2
英会話講座	坂場 寛子 (子ども教育学科 講師)	5
子ども教育学科企画 1Day キャンプ	仁藤 喜久子 (子ども教育学科 准教授)	6
心理福祉学科企画	志水 田鶴子 (心理福祉学科 准教授)	8
健康栄養学科企画	菅原 詩緒理 (健康栄養学科 准教授)	9
管理栄養士国家試験対策講座	菅原 詩緒理 (健康栄養学科 准教授)	10
GS学科 英語勉強会	熊谷 治子 (グローバル・スタディーズ学科 准教授)	11
GS学科 講演会	山口 普子 (学修支援センター 職員)	12
教職課程研究センター共催 白百合教師塾	岡 敬一郎 (子ども教育学科 教授)	13
フィギュアスケートにチャレンジ	仁藤 喜久子 (子ども教育学科 准教授)	14
「救急法」講習会	仁藤 喜久子 (子ども教育学科 准教授)	15
宗教委員会共催 クリスマスリースづくり	佐藤 一樹 (宗教委員会)	16
ツリー飾りつけとシュトーレン試食	神田 あづさ (健康栄養学科 教授)	17
キャリアリソース課主催 就活セミナー	泉田 礼子 (キャリアリソース課 課長)	18
2号館エントランス整備	山口 普子 (学修支援センター 職員)	19
学生相談部門		
2023年度 学生相談室報告	茂木 千明 (心理福祉学科 准教授)	20
全国学生相談研修会	伊藤 亜綾 (学生相談室カウンセラー)	23
学生相談室だより		24
参考資料		
学修支援センター規程		27
編集後記		30

「学修支援センター報第 10 号」の発刊にあたって

学修支援センター長 神田 あづさ
(健康栄養学科教授)

本学の学修支援センターは、2014年4月の開設から、大学生活や勉学に不安や困難を感じる（感じる強弱にかかわらず）すべての学生を対象に、4年間の大学生活の中で培うべきことからの修得を支援すると共に、適切な支援のあり方や方法に関する研究を行う場として、「修学相談・適応支援」、「リメディアル教育支援」、「スタディ・スキル習得支援」を3本の柱として活動してきました。今年度は、そこに「体力増進サポート」も加え4本柱として活動しました。

このセンター報は、2023年度の活動内容の記録であり、活動内容を幅広く知ってもらうことや実施側の内容の振り返りと改善点の検討のためのデータの一部でもあります。

5月の連休明けよりコロナ禍後の日常を取り戻すようになった2023年度は、少しずつではありますが対面での活動が戻り始めました。そのような中で、ピアサポーターとしての学生スタッフの皆さんの企画や実施の段取り、実践活動に示された力量には目を見張るものがありました。また、多くの職員・学生の皆さんの協力に支えられたことも実感いたしております。こうした皆さんの活躍と支援のおかげをもちまして、学生が絶えることなく来所してくれたことはできたのではないかと心より感謝いたしております。

さらに多くの先生方に支えられ充実したセンターでのリディアル教育は少人数制で個人のニーズに応じた学習効果が得られたのではないかと考えております。

現在の世の中の動きは、以前と比べて明らかに加速しています。同時に価値観も時代とともに多様化してきています。そのような状況下では、生活をしていく以上、様々な不安やストレスが私たちには加わってきます。それは、大学生にとっても例外ではありません。それらの不安やストレスにより大学生活や勉学に困難を感じるすべての学生を対象に本学の学修支援センターの活動を通して寄り添い支援することができますよう引き続き、皆様からのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

学修支援部門

2023年度 学修支援センター 報告

1. 概要

学生が4年間の大学生活の中で養うべき基礎的な資質の習得を支援すると共に、適切な支援のあり方や方法に関する研究を行う場として2014年4月に2号館1階に設置された、今年で10年目の組織である。学修支援部門と学生相談部門の二つを柱に活動している。

2023年度も健康栄養学科神田あづさセンター長の下、月1回センター会議を開き、各委員には学生の学修に関する企画を依頼するとともに、リメディアル企画に力を入れ、関係部署と連携をとった運営を行った。

2. スタッフ

1	センター長	健康栄養学科	神田 あづさ 教授
2	センター員	心理福祉学科／学生相談室 主任	茂木 千明 准教授
3	センター員	心理福祉学科	中嶋 みどり 准教授
4	センター員	子ども教育学科	仁藤 喜久子 准教授
5	センター員	グローバル・スタディーズ学科	熊谷 治子 准教授
6	センター員	キャリアリソース課	泉田 礼子 課長
7	センター員	学生課	川村 かほる 課長
8	センター職員	学生課兼任	山口 普子

3. 利用状況

(1) 利用者

2号館は学生が授業で使用する建物からは少し離れた場所にあり、静けさを求めて一人で過ごす学生がいる。学生相談室を内包するセンターは、居場所や相談前の待ち時間場所としても利用される。

(2) PC利用

14台あるノートPCのうち7台は学習室2に設置し、自由に利用することができる。残り7台はスタッフルームで管理している。

(3) コーヒー自販機

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2023	77	65	78	88	55	54	59	65	44	44	37	20	686
2022	63	77	27	106	63	42	108	75	99	101	67	30	858

5. 活動状況

(※企画外)

開催日	企画名等	開催時間
4月～	※新入生用ガイダンス動画配信	
4月3日(月)～19日(水)	前期履修相談	
4月18日(火)	プランター整備	13:00～14:00
5月22日(月)～7月3日(月)	2024 白百合教師塾	
5月17日(水)	英会話(初級)講座①	14:40～16:10
5月26日(金)	前期ピアサポーター顔合わせ	13:00～13:30
6月14日(水)	英会話(初級)講座②	14:40～16:10
6月20日(火)	講演会(GS)	10:40～12:10
7月12日(水)	英会話(初級)講座③	14:40～16:10
9月15日(金)～9月20日(水)	後期履修相談	
10月4日(水)	後期ピアサポーター顔合わせ	12:20～
10月11日(水)	英会話(初級)講座④	14:40～16:10
11月8日(水)	英会話(初級)講座⑤	14:40～16:10
11月27日(月)	フィギュアスケート①	10:40～12:00
11月28日(火)	フィギュアスケート②	10:40～12:00
11月30日(木)	フィギュアスケート③	10:40～12:00
11月30日(木)	講演会(健康栄養)	17:00～18:30
12月1日(金)	クリスマスツリー飾りつけ&シュトーレン試食	12:15～12:50
12月4日(月)	リース素材あつめ	10:40～11:30
12月5日(火)	クリスマスリースづくり	12:40～14:30
12月9日(土)	1day キャンプ(子ども教育)	10:00～15:00
12月13日(水)	英会話(初級)講座⑥	14:40～16:10
12月18日(月)	英語勉強会 カリグラフィ	10:40～12:10 12:10～13:00
1月15日(月)	救急法講習会	13:00～14:30 14:40～16:20
1月24日(水)	リメディアル企画意見交換会	12:20～12:50
1月27日(水)	講演会(健康栄養)	18:00～
2月26日(月)	管理栄養士国試対策講座(健康栄養)	
2月8日(木)～9日(金)	2024 白百合教師塾 (教職課程研究センター、子ども教育)	9:00～12:00
2月8日(木)	就活スタートアップセミナー(キャリアリソース課)	10:00～17:00
2月16日(金)	就活プレミアムセミナー(キャリアリソース課)	10:00～17:00

6. ピアサポーター

教員や学科による企画等の補助を目的として、ボランティアのピアサポーターを前期と後期ともに Google フォームにより募集を行った。2年生1名、3年生1名、4年生2名、計4名の応募があったが、空きコマと企画の活動時間が合わず、ほとんど活動することができなかった。

7. 研修会

日程	研修等	場所	参加者
8月4日(金)	第84回みやぎ学生相談連絡協議会	東北大	茂木
11月10日(金)	第55回全国学生相談研修会	オンライン	伊藤(亜)
11月18日(土)~ 19日(日)	第55回全国学生相談研修会	東京	伊藤(亜)
12月15日(金)	発達障害者支援セミナーinみやぎ	東京エレクトロン	茂木
2月12日(月)	ココロンリーツナガール プレイリーダー養成講座	仙台市サポートセンター	茂木
2月29日(木)	第85回みやぎ学生相談連絡協議会	東北福祉大	神田・茂木

英会話（初級）講座

子ども教育学科 坂場 寛子

全学科・学年の学生対象に、楽しみながら英語力を高めることを目的として、「英会話（初級）講座」を2023年度に計5回実施いたしました。和気あいあいとした雰囲気の中、参加学生はみなさんとても意欲的に取り組んでくださいました。

<前期>

テーマ：「英語の歌詞フレーズを使って簡単な英会話をしてみよう！」

日程と参加者：5月17日（水）4限、5名（子ども3名、健康2名）

6月14日（水）4限、5名（子ども3名、健康2名）

7月12日（水）4限、7名（子ども3名、健康4名）

内容：近年流行した洋楽を各回1曲（第1回「レット・イット・ゴー～ありのままで～（Let It Go）」、第2回「The Lazy Song」by Bruno Mars、第3回「You Belong With Me」by Taylor Swift）取り上げました。ミュージックビデオなどの動画を観ながら、歌詞に使用されており日常会話でも使える英語表現や文法を学びました。また、会話の中でどのように使うのかを確認し、発話をしながら会話の練習を行いました。

<後期>

テーマ：「色々な場面で使える英語表現を学ぼう！」

日程と参加者：11月8日（水）4限、3名（子ども1名、健康2名）

12月13日（水）4限、3名（子ども1名、健康2名）

内容：前期に本講座を受講した学生のリクエストを反映し、海外ドラマを観たり、実際にあるアメリカのレストランのメニュー表などを題材とし、「友達同士の会話」や「レストラン」などの場面で使える英語表現や文法を学びました。学んだ表現を使いながら、自分の事について英語で表現する文と一緒に考え、会話の練習を行いました。

【参加者の声】

「大好きな洋楽を使って英語を勉強することができて楽しかったです。教科書ではあまり使われていないフレーズを洋楽では使われているので、アメリカ人がより日々の生活で使っているフレーズを知ることができました」

「音楽から想像して歌詞を考えることがとても楽しかったです。英語は久しぶりでしたが、大切どころなどを的確に丁寧に教えて頂けて訳し方のコツなどが分かりました」

「進み方がゆっくりで活動しやすかった。グループワークの時間が多く、話しやすい雰囲気できれいに意見を言うことができた。意見を1つ1つ拾いあげてくれるのでうれしかった」

「1つ1つの単語や熟語、文についてしっかりと教えていただいたので英語への理解が深まったと思います。分からないことも分かりやすく説明して頂けたので、分からなくともやってみようと思うことができました」

子ども教育学科企画 1 Day キャンプ講習会 報告

子ども教育学科 仁藤 喜久子

子ども教育学科の学科画企画は、「1 Day キャンプ講習会」を開催いたしました。久しぶりの野外活動には、2～4年生 26名が参加いたしました。

○ねらい：保育者、小学校教諭に必要な野外活動の基礎知識を学ぶ

○日 程：2023年12月9日（土）10時～15時

○場 所：東松島自然の家（宮城県東松島市）

○内 容：保育者や教員に必要な野外活動の基礎技術

テント設営・火起こし・野外炊飯・安全指導 等



【参加者の感想】

・テントを張る際は、見栄えと風の吹き方に注意を払ってテントを設置することがわかりました。また、火起こしでは、火がついた時の達成感をみんなで味わうことができました。さらに、先輩方が要領よく指示を出している姿を見て、自分も先輩方みたいに的確な指示を出せるよう成長したいと思いました。先輩方から沢山のことを学んだり、先輩方と仲を深めることができたりして有意義な時間を過ごすことができました。（2年 Kさん）

・野外活動の基本となることを現地のインストラクターに丁寧に教えていただき、就職した際に活かせる貴重な体験をすることができました。野外炊飯では、様々な学年との交流を持ちながら、楽しく作ることができました。一生懸命作ったあとに、皆で火を囲いながら食べたご飯はとても美味しかったです。日頃、関わることのない人達と、1つのことを一緒にやることで、会話が生まれたり、新たな発見があったりしました。今後も学年交流の機会を大事にし、仲を深めていけたら良いと思いました。（3年 Sさん）

・普段1年生～3年生と交流をする機会がないため、初めて話す人が多かったのですが、自己紹介をするとすぐに話すことができました。皆で協力して野外活動を行い、その中で交流を深めることができました。みんなで協力して作った料理はとても美味しく、楽しく食事をすることができました。私はアレルギーを持っているため材料の中から食べれるものを分けて作ったのですが簡単に作ることができたので、家でも作ってみたいと思います。東松島自然の家にて、沢山写真を撮ったり、笑ったり、卒業前に思い出作りができました！（4年 Eさん）

1 Day キャンプ講習会の様子



「大学生×社会貢献＝雑巾作り!？」と「フードドライブ活動」 ～誰かのために自己を役立てる活動を楽しもう～

心理福祉学科 志水 田鶴子

本学科が社会貢献を行う上で大切にしているのは、マタイによる福音書 5章 1311 節「地の塩、世の光」という言葉です。学生には自己の力を、誰かを活かすために活用してほしいと願い、様々な社会貢献の機会を提供しています。

フードドライブ活動は、仙台市社会福祉協議会のフードドライブ支援事業を活用し、実施しました。今年度のフードドライブ活動は、「年末年始は明日の食事のことを気にせずに過ごしてほしい」という思いから、11月から12月の約1ヶ月間、2年生の吉田ゼミや3年の学生有志を中心に活動を行いました。教職員はもとより、同窓会の皆様、清掃業務に携わるスタッフの方々、カリタスの丘のスタッフの皆様など、多くの方々にもご協力をいただき、昨年度よりも多くの食料をご提供いただきました。なかには自分が食べようとしていたお菓子やカップ麺を提供してくれる学生もおり、食料を受け取った学生も感激していました。誰かのために自己を役立てることは大袈裟なことではなく、ちょっとしたことでもできることを実感したようでした。

今年度から立ち上げた「大学生×社会貢献＝雑巾作り!？」は、3年の志水ゼミの学生が行っています。ヤングケアラーや貧困世帯で生活している子どもがいます。長期休み明けに学校に持参する雑巾を作って、子ども食堂や児童館においてもらえれば、100円ショップで雑巾を買わずに済み、その100円でパンやお菓子を買うことができるのではないかと考えて立ち上げた企画です。誰からもありがとうと言われるわけではありませんが、雑巾を手にした子どもが、雑巾を手に入れるために割く時間がなくなり、ホッとしてほしい、そんな願いから、不得手な裁縫をしています。仙台市社会福祉協議会主催のボランティアフォーラムでワークショップを行った際、我々の活動に賛同してくれたサロンを運営者から、協力の申し出をいただきました。今はサロンに通所する高齢者の方にもご協力をいただきながら、雑巾を量産しているところです。

一人の人間ができることはわずかですが、仲間と集い、社会にその必要性を発信することで協力者が増えていきます。今後も楽しみながら社会貢献活動を継続していきます。



健康栄養学科公開講演会「栄養学の展望～管理栄養士の役割～」を終えて

健康栄養学科 菅原 詩緒理

2023年11月30日（木）1号館2階124教室で17時から18時30分の間に日本栄養士会代表理事会長の中村丁次先生より「栄養学の展望～管理栄養士の役割～」をテーマに講演会を開催致しました。現在、宮城県内の養成校は、管理栄養士養成大学の志願者を確保するため、宮城県栄養士会へ要望書を提出し大きな一步を踏み出しました。どのようにして高校生へ管理栄養士の魅力をPRしたらよいかなど、さまざまな課題を抱えております。我々養成校の教職員や日々管理栄養士を目指して勉学に励む学生達の皆様の意欲を高めたく、この講演会を企画致しました。

学外からの参加者、学生達、そして教職員により160名近い参加者の申し込みがありました。当日は、急遽別な会場を用意するほど当日参加者も多く、盛況のうちに終了致しました。講演会の冒頭では、「皆さんはなぜ管理栄養士になりたいですか？」との中村丁次先生のお問いかけに、学生達は「なんだだろう？」と考えることができ、講演が始まりました。中村先生のお話は大きく4つの内容で構成されていました。「1、人間は、なぜ栄養を考えて食べる動物になったか？」では、人間が進化してきた過程を理解し、栄養学は食べ物に命の素があると考え、その成分（栄養素）を明らかにしてきたことを学びました。特に、ビタミンの結晶を拝見し、ダイヤモンドのように美しい栄養素をイメージしながら栄養指導することが印象に残りました。次に「2、栄養を無視するとどうなるか？」では、栄養を良くすると、健康で強くなれるだけでなく、登校日数が改善する、学校の成績が向上する、精神的に安定する、病気にかかりにくくなる、大人になれば労働力が増大して収入が増える、食費や医療費が減少し、環境負荷も軽減するなど科学的に証明された効果があることを学びました。「3、栄養学の展望」では、人々が望んでいる健康寿命の延伸とは何かを考えさせられ、これまでの疾病予防・増悪化防止だけが目的ではなく、長寿とともにQOLの維持、向上を望んでいることに対して、今後は栄養学がどのように答えるのかを考えさせられました。最後の「4. ヒトにも、地球にも優しい栄養学」では、日本人の環境負荷を考えながら、持続可能な、健康な食事をしていくために取り組むことを学びました。我々が学ぶ栄養学は、生命科学の根幹であり、益々発展していく可能性を強くお話されていました。

参加された皆様は、中村丁次先生の温かな眼差しの中で「栄養学の展望～管理栄養士の役割～」を拝聴し、大変有意義な時間になったことと思います。ご参加および会の運営にご尽力いただいた皆様に、心から厚く御礼申し上げます。

第38回管理栄養士国家試験の受験対策講座について

健康栄養学科 菅原 詩緒理

令和6年(2024年)3月3日に第38回管理栄養士国家試験が実施されました。直前の外部講師による対策講座の一部には、学修支援センターの援助金で開催することができたことに、心より、厚く御礼申し上げます。おかげ様で、本学の合格率は81.7%でした。全国の合格者状況では、受験者16,329名 合格者8,056名、合格率49.3%で、学校区分別合格者状況では、管理栄養士養成課程(新卒)のみの合格率は80.4%で本学はこれを上回りました。学生たちの継続的な努力と教員による親身な指導によって高い合格率を達成することができました。本学の管理栄養士国家試験の対策は、本学へ入学を希望する理由の一つとしても挙げられております。

栄養士は、栄養士養成施設で学び卒業することで、都道府県知事の免許を受けて「栄養士」になることができます。一方、管理栄養士は、管理栄養士養成施設で学び、管理栄養士国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けて「管理栄養士」になることができます。また、栄養士養成施設で学んだ人も、卒業後に栄養士として働き、管理栄養士国家試験に合格すれば「管理栄養士」になることができます。

管理栄養士国家試験は、配点を1問1点とし、200点満点中、総合点で約60%の正答率が合格基準となっています。出題分野の内訳は、社会・環境と健康 16問、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 26問、食べ物と健康 25問、基礎栄養学 14問、応用栄養学 16問、栄養教育論 13問、臨床栄養学 26問、公衆栄養学 16問、給食経営管理論 18問、応用力問題 30問です。最新の出題基準での変更点は、応用力試験の出題が20題から30題に変更されたことが挙げられます。個人又は集団における種々の状況に応じた栄養管理を実践する上で必要な知識、思考・判断力を備えているかについて、評価がより一層可能となるよう変更となりました。

管理栄養士の主な業務の一つとして、傷病者に対する栄養の指導がある中、地域包括ケアシステムの構築・推進に向けて、個々人の生活の視点を踏まえたきめ細かな対応が今後より一層重要になると考えられます。医療・介護をはじめとした様々な領域において栄養管理の質の向上が求められる一方で、働き手の減少が見込まれており、効果的・効率的なアプローチとして多職種連携がますます進むと推測されます。こうした中、複雑困難な個別案件や地域の栄養課題に対し、栄養の専門職としてエビデンスやデータを基に、論理的思考により、最適解としての栄養管理をいかに打ち出していけるか、それを多職種連携の中で論理的に提案できるかといったことが一層問われてくるものと考えられます。

手厚い対策で管理栄養士の国家資格を得た白百合の卒業生が、社会で活躍することを、切に、心から願っています。

学科企画 英語勉強会

グローバル・スタディーズ学科 熊谷 治子

学修支援センターでは、グローバル・スタディーズ学科による学科企画として、アクティブ・ラーニングを取り入れた「英語勉強会」を行っています。これまで参加した学生のみなさんの要望に応じて、英語の勉強方法の相談会や英語圏の文化の紹介などをしてきました。そして、この「英語勉強会」の醍醐味のひとつは、なんといっても充実したアクティビティーにあります。英語を使用しながら活動するカリグラフィーなどがそうで、毎年好評をいただいているイベントのひとつといえます。

本年度は、12月18日（月）①10時40分～12時10分 ②12時10分～13時00分に、2号館1階の学習室1において行ないました。参加者は、グローバル・スタディーズ学科1年12名および4年生1名、合計13名となりました。「クリスマスについて楽しみながら学び一つの異国の文化に触れることができた。英語と異文化のつながりを改めて感じた。」「初めて体験してみて、日本の書道とは全然違うと思った。」「日本にはないクリスマス・カードを贈り合う文化がとても素敵だと思う。身近な人に送りたいと思った。」「お手本のように上手にできなかったが、自分のオリジナルの作品を作れて嬉しかった。」という感想がありました。とても集中して、オリジナルのクリスマス・カード作りに挑戦している、みなさんの生き生きとした姿が印象的でした。

このように「英語勉強会」は、「楽しく学ぶ」をモットーとする英語や英語圏の文化に親しむための場です。英語の勉強は、ひとり机上の本と向き合うだけでは、なかなか継続が難しい場合もあるかもしれません。ともに意見を交換しながら、英語を学ぶ楽しさを実感つつ、互いの夢に向かって一歩前進しましょう。



グローバル・スタディーズ学科 講演会

学修支援センター 山口 普子

6月20日(火) グローバル・スタディーズ基礎演習の授業で、ベストセラー旅本「ひとりっぷ」シリーズ、「ふたりっぷ」の著者 福井由美子さん(集英社 学芸編集部編集長)による講演会が行われました。

女性のひとり旅を応援する活動(著作・講演・商品開発等)で人気を博す「ひとりっP」と福井氏は、海外渡航400回を超え、一人旅歴25年の圧倒的体験をもとに、海外旅行の心得、旅に出る魅力についてお話してくださいました。今回で5度目となる講演会でも、新たな写真や動画もたくさんご用意いただきました。

「百聞はひと旅に如かず」を合言葉に、通常のガイドブックには掲載されないような驚きの話や、これから旅をする方への豆知識も含め、90分があっという間でした。



白百合教師塾

子ども教育学科 岡 敬一郎

白百合教師塾は、本学全学科の教員採用試験受験希望者を対象とする教員採用試験対策講座である。2023年度は、前年度に続いて教職課程研究センターと共催の形で、2期にわたって教職教養に関する講座を開催した。

1期は2023年5月から7月にかけて開講した。教育心理分野を心理福祉学科の渡邊兼行先生、教育原理分野と教育法規分野を岡が担当し、教員採用試験一次試験を念頭においた問題演習を中心に実施した。主な対象者は2023年夏実施の教員採用試験の受験を予定していた4年生であったが、3年生も熱心に参加し、教員採用試験への意気込みが感じられた。

2期は春季休業期間中の2023年2月に集中して開講した。担当は1期と同じ2名だったが、形式は問題演習だけでなく講義や自習・質問の時間も準備した。受講者はやや少なかったが、1年生の参加もあり、春季休業期間中にもかかわらず積極的に取り組んでいた。

教員採用試験は、近年の早期化・複線化の動きにともなって、今後ますます多様化することが予想される。今年度は対策講座の対象学年を広げて対応してきたが、講座のあり方についてさらに検討していきたい。



泉区的环境を活かしたスポーツ企画 フィギュアスケートにチャレンジ 報告

子ども教育学科 仁藤 喜久子

2022年度からの継続、「フィギュアスケートにチャレンジ！」を実施いたしました。2023年11月、スケートをやってみたい！という初心者の方から、小学生の時にやったことがある！という初級・中級者まで、貸し切りのスケートリンクでスケーティングを楽しみました。今年度は延べ24名の方にご参加いただきました。

○日 程：2023年11月27日（月）、28日（火）、30日（木）Ⅱ

○場 所：アイスリンク仙台（仙台市泉区高玉町）

○内 容：スケートの基礎技術を学ぶ スケートを楽しむ

○講 師：アイスリンク仙台 インストラクター

【参加者の感想】

・大変だったのは氷の上で掴むところを掴まずに滑ることです。また、氷の上で転ぶことがとても怖かったです。2回目は慣れたので、滑ることがとても楽しかったです。児童に教える時の要点もわかったので、とても勉強になりました。

・初めてスケートをやってみて、最初は氷の上をちゃんと立つことすら出来なかったけど2回行ってやっと少しだけ滑ることができるようになりました。滑る時に前を向くこと、膝を曲げることが大事であること。また重心のかけ方など様々なコツを学ぶことができました。2回を通して諦めずにやることで上達することができたので諦めないことの大切さを学ぶことができました。また楽しむことも大事だと思いました。少し滑れるようになったのでまた機会があったら挑戦したいと思います。

・スケートを一年振りに滑ってみて、滑ることができるのか不安でしたが、思った以上に滑ることができたと思います。上手に滑るコツとして、怖くても下を向かないことだと思いました。気持ちも、怖い怖い無理ではなくて自分は滑れると思ひ込みながら滑るといいと思いました。一年前は、止まることができなくて苦戦していたが、今回は目的地に着いた時に止まることができていて成長を感じました。とても楽しかったです！



いざという時に役立つ企画 日本赤十字社「救急法」講習会 報告

子ども教育学科 仁藤 喜久子

2024年1月、救急法短期講習会（日本赤十字社）を実施いたしました。講習では今すぐできる心肺蘇生法の仕方や AED の使い方など、救急法の基礎知識を学ぶ機会となりました。参加者 44 名は 90 分の講習終了後、日本赤十字社（宮城県支部）から短期講習の修了カードが交付されました。

○日 程：2024年1月15日（月）Ⅲ・Ⅳ 2回開催

○場 所：本学 介護実習室

○講 師：日本赤十字社宮城県支部 鈴木指導員

【参加者の感想】

・今回ゼミ活動の一環として参加をしました。4月から保育士や幼稚園教諭として勤務するので、今直ぐ現場で役立つ技術を教えていただき、とても有意義な時間となりました。いつでも何があるか分からない時代です、学科コースに関係なくとてもおススメの講習会だと思います。！鈴木指導員の指導はとても丁寧で分かりやすかったです。

・とても勉強になりました。また来年も実施して欲しいです。ありがとうございました！



宗教委員会共催 クリスマスリースづくり

宗教委員会 佐藤 一樹

2023年12月5日（火）12：40～14：30に、クリスマスシーズン恒例企画である宗教委員会共催のクリスマスリースづくりが開催された。私にとって今回のクリスマスリースづくりは、なんと5回連続参加となる。毎年この時期にクリスマス気分を味わえる素敵な機会を頂けることに感謝しつつ、今年も前日に旧泉修道院と大学の敷地内で有志の学生と教職員でリースの素材集めを行った。

当日は多くの学生が参加するなか、終始賑やかな雰囲気ですりづくりが進んでいった。今年も毎年お世話になっている鈴木みゆき先生のご指導のもとスタートした。はじめに鈴木先生から材料の説明を受け、最初の土台作りであるゴールドクレストの固定を行っていく。次に西洋ヒイラギやモミ等をリースに固定していく。1周目につけたゴールドクレストの間にうまく挟むようにしてワイヤーで括っていき、リースに立体感を出していく。最後にグルーガンで木の実やクリスマスアクセサリーを付けてクリスマスリースの完成だ。私のリースはこれまでよりもコンパクトですっきりとした仕上がりになった。また、アクセサリーもたくさん散りばめ、今までで一番クリスマスリース感が出た作品になったと思う。他の参加者を見ていると、最初は先生の見本を参考に不安ながら作業を進めていくが、次第に自分たち独自の形や飾り付けになっていき、完成したリースの出来栄えにとっても満足そうであった。

完成後は毎年恒例の写真撮影会が始まり、皆リースを片手に記念撮影を行った。友達と楽しそうに写真を撮る学生を見て、今年のクリスマスリースづくりも大成功で終わることができたと実感した。今後も機会があればクリスマスリースづくりに参加させていただきたいと思う。

クリスマスツリー飾りつけ&シュトーレン試食

学修支援センター 神田 あづさ

今年度は、校内では早くも11月にはツリーが飾られ始めましたが、センターでは例年どおり学生に呼びかけ、アドベント期間でもある12月1日（金）のお昼休みに飾りつけを行いました。協力してくれたのは、心理福祉学科3名、GS学科2名、健康栄養学科8名、教職員2名、合わせて15名です。参加者は会話をしながら飾りつけを楽しんでいました。

その後、場所をDKスペースに移してドイツのクリスマスケーキであるシュトーレンをみんなで食べました。シュトーレンを食べる際に、ドイツのクリスマスケーキがなぜシュトーレンなのか？どのようにして食べるのかなどを話しながら食べました。



「ドイツでは、クリスマスを待ちわびて家族で少しずつ食べていくことがよく分かった。」
「薄く切って食べる方法や、ドイツの家庭の様子などもイメージできて良かった。」との感想や、初めてシュトーレンを食した、と回答していた学生も多いことから、海外のクリスマス文化を知ってもらうことに少しでも寄与できたのではと思います。また、「キリスト教学で海外クリスマスの過ごし方を学んだことがあった。その際ブッシュドノエルやシュトーレンの話が出て気になっていたので、このような機会があって良かった。」との意見があったことから、学生が授業の内容を深めるきっかけにもなったことも嬉しかったです。お昼休み時間での実施でしたので、あわただしく行われた行事ではありましたが、学生たちにとって短くとも充実した時間になってくれればと思って実施いたしました。

健康栄養学科所属である私と接する機会が少ない、他学科の学生に食文化の話が出来たことを有難く思っております。

ほかの説明会と重複して参加したくてもできなかった、という学生の声もありましたので、今後の企画日時設定の際は学内予定も把握した上で進める必要もありそうです。

2023年度 就活スタートアップセミナー&就活プレミアムセミナー報告

キャリアリソース課 泉田 礼子

【就活スタートアップセミナー】

2024年2月8日（木）10:00~17:00

目的：自己分析・企業研究を行い志望動機・ガクチカ・自己PRの完成を目指す。

【就活プレミアムセミナー】

2024年2月16日（金）10:00~17:00

目的：参加者全員が模擬面接を体験し、自分の課題点を知る。

今年度の講座は、就職活動の解禁日を目前にした時期に実施した。就職活動のスタートを切るには準備不足と感じている学生向けに、「スタートアップセミナー」を開催した。1年かけて準備したことを振り返り基本の総ざらいを行った。何度やっても難しいと感じるであろう自己分析は、自分をPRするためには欠かせないものである。自分に向き合うということが日常的でない学生にとって、初めての体験であり、自分の強みと弱みを受け入れることによって新たな発見や自己成長につながると考えている。また面接対策を中心とした「プレミアムセミナー」は、参加学生全員が集団面接と個人面接を数回繰り返し、緊張した自分や伝えたいことを伝えられない状況を実感することになった。最後の振り返りでは、講師の川田マキコ先生より今後の課題や考え方、本番に向けての心構えなどの激励コメントをいただき、満足度の高い講座となった。

【学生アンケートより抜粋】

- ・今まで避けてきた就活の一步目を踏み出せた。
- ・就活に必要な内容を身につけることができた。
- ・自分に何が足りないのか、自分の弱みを知ることができた。
- ・受け答えの仕方や回答を人に聞いてみてもらえる機会はあまり無いのでとても良い時間だった。
- ・実践的な面接で非常に役に立った。
- ・自分の長所と短所を見つけられたので、参加して良かった。
- ・自分の情報をまとめ、就きたい職業探しをしたい。



2号館エントランス整備

学修支援センター 山口 普子

2号館には他の建物から離れた場所にありますが、学修支援センターの他、教授会が行われる会議室もあり、教員の出入りも多い棟です。また、建物の脇には来客用の駐車場があることで、お客様の目に最初に触れる建物であると言えます。

学修支援センターでは1年をとおしてこの2号館エントランスの整備を行います。5台のプランターには、春には花を植え、夏にはグリーンカーテンを設置してきました。毎年恒例行事として定着しました。

今年の春は、ピアサポーターや希望する学生に手伝ってもらい、パンジーを植えました。理科的要素も加え、作業前に植物の発芽条件や土づくりについて触れたことで知識を応用できた企画になりました。植えたパンジーはその後すべてガの幼虫に食べつくされてしまいました、それもよい経験です。

夏には昨年のこぼれ種から発芽した朝顔をもとに、グリーンカーテンを設置しました。夏季休暇中には紫色の花が咲き、学生が少ない中、学内を彩ってくれました。



学生相談部門

2023 年度【学生相談室】報告

1. 開室日数と担当

2023 年度は、2022 年度より Google フォームでの予約が可能になったことから、4 月の授業開始の開室を待たずに予約することができるようになりました。

教員兼任カウンセラー2 名と非常勤カウンセラー2 名の計 4 名の体制で、合計開室日数は 171 日（2022 年度 178 日）でした。また、2022 年度後期と同様に、利用者数および面接回数が増えた場合には、各月の開室時間を予定より増やして対応できるよう対策をとりました。

（2023 年度：相談室担当）

月曜日 9：00～17：00 （非常勤：伊藤亜綾）
火曜日【前期】13：40～14：30 / 【後期】10：40～12：40 （兼任：茂木）
水曜日 9：00～17：00 （非常勤：伊藤亜綾）
木曜日【前期】10：40～11：40 / 【後期】14：50～15：50 （兼任：中嶋）
金曜日 9：00～17：00 （非常勤：伊藤律子）
※ 来談学生の増加に伴い、上記の開室時間での対応が難しくなった場合 ⇒ 火曜日または木曜日の半日を開室し、非常勤カウンセラーの担当時間を増やしました。

（開室日数）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2019 年度	12	18	18	17	9	12	18	18	16	18	8	11	175
2020 年度	6	10	14	12	13	7	20	20	17	16	8	12	155
2021 年度	10	15	20	20	12	14	17	18	18	17	11	10	182
2022 年度	15	18	19	16	10	13	17	16	17	15	11	11	178
2023 年度	13	18	20	19	6	12	19	17	14	17	7	9	171

2. 学生相談室の利用者

利用者の実数は学生が 41 名で、教員や保護者の利用はありませんでした。昨年と同様、コロナ前に比べて実数は多くなっています。その中でも、心理福祉学科の学生の利用が最も多く、半数以上を占めています。一方、年間の面接回数は 304 回と、作年に比べて 100 回以上は減少しており、ほぼコロナ前の面接回数に戻ってきています。2020 年度より、利用者の申し出により電話相談での対応を引き続き実施していますが、こちらの利用者も少なくなっています。

年間の面接回数が 1 回の学生は 18 名（昨年 9 名）、2～9 回の学生は 13 名（昨年 20 名）、10～19 回の学生は 3 名（昨年 7 名）、20 回以上継続的に利用している学生は 7 名（昨年 7 名）でした。昨年度と比べ、利用者の実数はあまり変わらないものの、合計面接回数が減少したのは 1 回の面接対応で終わる学生が多かったことが分かりました。ただし、継続的に利用している学生が一定数おり、その相談内容からすると、「心身の健康」の問題を抱えながらも学生相談室を利用して「大学生活」に関する相談を定期的に行いながら日々のストレスを軽減して大学に通っていることが分かりました。

利用者（実数）の内訳

学科／学年	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
人間発達/ 子ども教育	2 (0)	0 (2)	2 (1)	1 (1)	5 (4)
心理福祉	2 (4)	5 (6)	7 (7)	9 (4)	23 (21)
健康栄養	2 (2)	3 (1)	2 (4)	2 (1)	9 (8)
グローバル・スタディーズ	3 (1)	0 (3)	0 (1)	1 (5)	10 (10)
合計	9 (7)	8 (12)	11 (13)	13 (11)	41 (43)

() 内は 2021 年度の実数

月別新規来談者数（学生）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	8	7	1	3	0	2	0	3	1	2	0	1	28
2020年度	4	2	2	2	0	3	10	3	1	3	1	0	31
2021年度	9	7	5	5	2	0	5	4	2	0	0	0	39
2022年度	12	5	8	3	1	2	3	3	2	1	1	2	43
2023年度	13	7	4	0	1	2	7	2	3	1	1	0	41
利用者 実数	13	17	15	14	6	10	19	16	15	10	6	5	平均 12

月別面接回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2019年度	12	32	29	34	11	21	29	32	31	30	9	12	282
2020年度	11	25	40	34	30	27	59	57	37	42	21	29	412
2021年度	26	45	51	55	30	27	48	57	58	47	29	23	496
2022年度	24	47	47	49	18	39	39	35	38	33	25	23	417
(8)	(4)	(9)	(10)	(7)	(4)	(8)	(7)	(7)	(5)	(6)	(8)	(9)	(84)
2023年度	26	37	33	36	12	18	34	34	25	22	15	12	304
(8)	(2)	(4)	(3)	(5)	(4)	(3)	(7)	(4)	(0)	(2)	(2)	(0)	(36)

() 内は電話相談の件数

相談内容別の面接回数

	学業	大学生活	進路	対人関係	性格	心身の健康	家族	ハラスメント	その他	合計
2019年度	6	111	22	37	1	84	18	0	3	282
2020年度	4	131	22	32	10	161	38	0	14	412
2021年度	6	217	21	46	21	139	40	0	6	496
2022年度	4	188	77	27	11	100	8	0	2	417
2023年度	5	136	45	23	3	70	18	0	4	304

3. 学生相談室の活動

(1) Tea Hour & 企画・研修

2023年度も昨年度に引き続き、Tea Hour や企画・研修といった人を集めての活動を実施しませんでした。

(2) みやぎ学生相談連絡協議会

宮城県内の13大学の学生相談関係者が集まる会議で、年2回開かれます。

第84回(9/1)は東北学院大学が当番校で、協議会は対面で開催され、茂木が出席しました。各大学の2022年度の「相談形態」「連携対応」「活動」について2021年度と比較する形で報告し、情報を共有しました。

		来談者数・のべ数等		特記事項
		2021	2022	
相談形態	対面相談	292回	333回	学生の利用者数：2021年度は39名。2022年度は43名。 Gooleフォームでの相談予約利用（2021年7月より開始）：2022年度は26回。
	電話相談	204回	84回	
	オンライン相談	—	—	
	その他	2名（2回）	1名（1回）	※その他：保護者対応
連携	教職員	2件（5回）	2件（2回）	
	学外機関	1件	0件	
活動	居場所	—	—	「学生相談室だより」年2回発行。4月ガイダンスにての配布と、後期に学内サイトにての閲覧。 4月ガイダンス期間は新入生向けに学内サイトより紹介。
	グループワーク・イベント等	—	—	
	研修会の実施	—	—	

第85回(2/29)は東北福祉大学が当番校で、協議会は対面で開催され、神田あづさ先生と茂木が出席しました。話題提供として、東北福祉大学の上埜高志先生が「青年期の睡眠障害」というテーマで話されました。その後、グループに分かれて各大学の状況を共有しました。

(3) 日本学生相談学会

本学は日本学生相談学会の機関会員です。そのため、全国学生相談研修会（全国の高等教育機関において学生支援に携わる教職員および学生相談カウンセラーを対象とした研修会）および学生相談セミナー（学生相談の今日的なテーマに関するセミナー）に機関会員として参加できます。

2023年度は、第61回全国学生相談研修会に伊藤亜綾先生が参加しました。

第 61 回全国学生相談研修会に参加して

学生相談室 伊藤 亜綾

全国学生相談研修会は日本学生相談学会が主催し、年に一度開催されている研修会です。コロナ禍となった 2020 年以降はオンラインで開催されてきましたが、今年度は第 1 部がオンライン、第 2 部参集と 2 部制となり、久しぶりに一部参集での開催となりました。第 1 部は 11 月 10 日に特別講演と小講義 2 つ、第 2 部は 11 月 18・19 日に分科会で構成されていました。

全国の大学から学生相談業務担当のカウンセラーだけでなく、教員・事務職員と様々な立場の教職員が参加し、異なる視点での意見交換ができる貴重な研修会です。

オンライン開催の第 1 部は、大学が関わる法律や事例、発達特性を意識した薬物療法について学び、常に新しい知識を取り入れていくことの大切さを感じました。

参集開催となった第 2 部は、分科会「職種・専門性の違いによる事例の捉え方の共有 - 教員・職員・カウンセラー等による事例検討 -」を選択しました。様々な立場で学生支援に携わる参加者と事例検討でき、この分科会の事例検討の進め方はこれまでに経験したことのないものでした。この分科会は「事例検討を通して正解を求めるのではなく、お互いの違いを認めて理解を深めることによって、新しく生まれるものを見つけたい。」を目的としていて、率直な意見を言ってもいいと思える環境で事例検討をしていくことができました。女子大の方が多く集まるグループでは、女子大ならではの悩みや今後の方針について話すことができ、〈自分だけが悩んでいるわけではない〉と心強い思いでした。事例発表者に対して役立つ、元気になる内容をコメントするというルールも、連携・協働するためのヒントになっていると感じました。

「多職種連携」、「連携・協同」は、学生支援において必要とされることですが、円滑に進めていくことに難しさを感じる場面があります。今回の分科会で、「学生支援に携わるものはその一人の学生に関わる人として、それぞれが対等であり、だからこそ、率直に意見を言え、よりよい支援につなげることができる。」という学びがあり、この学びを実践に活かしていきたいと思いました。

久しぶりの参集での研修会は、直接会って話せる、顔を見てお互いのことを知ることができる、コロナ禍以前では当たり前だったことの大切さをあらためて感じました。

今後も継続して参加し、学生支援に活かしていきたいと考えています。

学生相談室だより

本学では、学生の皆さんがより充実した学生生活を送ることができるよう支援するため、学生相談室を設けています。さまざまな問題や悩みについて相談に応じられるよう、専門のカウンセラーがお待ちしております。

個別相談(心理カウンセリング)はもとより、情報提供や居場所づくり、学生生活を楽しむためのイベントや研修の企画など、様々な活動を学修支援センターと共同で行い、皆さんの生活をサポートしています。



開室日時・面接時間

月ごと掲示：5号館前の掲示板・学内専用サイト
対面相談（50分程度）・電話相談（30分程度）

守秘義務について

相談に関する秘密は堅く守られます。
あなたの同意なしに、家族・友人・大学関係者などが
カウンセリングで話した内容を知ることはできません。



自分の気持ちを
誰かに伝えたい
☆
話を聴いてほしい

友だちや家族と
うまくいっていない

例えば

進路について
悩んでいる

友人が
困っているので
何とか
力になりたい

授業に
ついていけない

【利用方法】 「相談申込票」は、学生相談室、学生課窓口を用意してあります！

カウンセラー在室時 → 学生相談室に直接どうぞ。

カウンセラー面接中
不在時 → 学生課窓口 または Gooleフォーム

場 所

2号館1階
学修支援センター内

—。 学生相談室だより。 —



2024年1月 学生相談室

年明けから大変な災害が起こり、不安に感じた方も多いと思います。被災されたすべての方にお見舞い申し上げます。日常を維持しつつ、それぞれにできることから取り組んでいけたらと思います。

開室日については、ユニバ・学内掲示板をご覧ください。



災害時の心のケアについて

大きな災害を経験すると、心身にさまざまな影響が出るがわかっています。以下に起こりうる反応と対応を紹介します。

不安と緊張

不安と緊張は、災害に対する一般的な反応です。先のことが心配でたまらない、眠れない、集中力がなくなる、驚きやすくなる、神経質になる、などの反応が起こります。また、心拍数の上昇、発汗なども起こります。

→対応

- ・日中にリラックスする時間を取りましょう。いろいろなリラクゼーション法を試してみてください。気持ちが落ち着くと、眠ったり集中しやすくなります。
- ・呼吸法、あるいはその他のリラクゼーション法を用いてください。これらを併用してもいいでしょう。



自分の行動や反応を思い悩む、恥ずかしく思う

多くの方が、災害に対する強い反応を体験します。恐怖や不安、集中力の低下、自分の反応に対する恥の感情、罪悪感などが起こります。尋常でない出来事の直後にいろんな気持ちがわいてくるのは、当たり前のことです。おかしいことはありません。

→対応

- ・話せるときに、家族や信頼のおける友人とこれらの反応について話してみましょう。誰かに話を聞いてもらうときには、時と場所を選びましょう。あなたが感じていることを話していいか、相手に尋ねてみてください。
- ・これらの反応は、誰にでも起こるものであること、おさまるには時間がかかるものであることを覚えておきましょう。
- ・これらの反応が一月以上続くようなら、専門的な援助を受けることを考えましょう。



睡眠の問題

睡眠の問題は、災害後に起こりやすい問題です。極限状態にあり、生活ストレスや生活の変化を思い悩んでいるからです。そのため、寝つきが悪くなったり、夜中にしょっちゅう目覚めたりすることがあります。

→対応

- ・毎日同じ時間に寝るようにしましょう。就寝前にリラックスしましょう。
- ・夕方カフェイン入りの飲み物を飲むのはやめましょう。アルコールは控えましょう。
- ・日中の運動を増やしてください。
- ・昼寝は15分までにしてください。午後4時以降は昼寝をしないようにしましょう。



～サイコソジカル・ファーストエイド 第2版より～



- 報道や SNS を見て辛くなったら、いったんメディアから距離をおきましょう。心を休めることが大切です。
- 「被災地の方に比べたら…」と過度に自分を鼓舞したり、批判が自分に向いたりしたらストップしましょう。
- 普段の生活リズムの維持を心がけましょう。

參考資料

仙台白百合女子大学
学修支援センター規程

(根拠)

第1条 学則第56条3項及び運営組織規程第12条第2項に基づき、学修支援センター規程を定める。

(目的)

第2条 学修支援センター（以下、センターという）は、本学の理念に基づき、各学科・学生部・各種委員会等、関係する各組織と協力連携し、本学学生が大学生活で培うべき基礎的な能力の習得を支援する支援活動と支援に関する研究活動を行う。

(業務)

第3条 センターは前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 就学相談・適応支援に関する業務
- (2) リメディアル教育支援に関する業務
- (3) スタディ・スキル習得支援に関する業務
- (4) 心身の健康に関する支援業務
- (5) 適切な支援についての研究に関する業務
- (6) 前各号に掲げるものの他、前条の目的を達成するために必要な業務

(部門)

第4条 センターの業務を円滑に遂行するために、センターに以下の2部門を置く。

- (1) 学修支援部門
この部門は第3条に定める業務を行うが、特に第3条第1項2号、3号、5号の業務を職掌する。
- (2) 学生相談部門
この部門は第3条で定める業務を行うが、特に第3条1号、4号、5号の業務を職掌する。

(センター員)

第5条 センターに次の各号に掲げるセンター員を置く。

- (1) センター長 1名
- (2) 副センター長 1名
- (3) 学生相談部門学生相談室 主任相談員 1名 室員 若干名
- (4) 専任職員 1名
- (5) 教職員スタッフ 若干名
- (6) 学生スタッフ 若干名
- (7) その他、業務の遂行に特に必要とセンター長が認めたスタッフ 若

千名

(センター長)

- 第6条 センター長は本学専任教員の中から学長が委嘱する。
- 2 センター長は、センター員を代表し、センターの業務を統括する。
 - 3 センター長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(副センター長)

- 第7条 学修支援センター副センター長1名は本学教職員の中から学長がする。
- 2 副センター長はセンター長を補佐し、センター長の不在時にはその職務を代行する。
 - 3 副センター長の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

(学生相談部門学生相談室主任相談員)

- 第8条 学生相談部門学生相談室主任相談員1名は、本学専任教員の中から学長が委嘱する。
- 2 主任相談員は相談室の業務を統括し、必要に応じて学生の相談に当たる。
 - 3 主任相談員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(専任職員)

- 第9条 専任職員1名は、学長と事務局長の協議によりセンターに配置する。
- 2 職員は第14条の示すセンターの事務のほか、センターの機能を円滑にするための諸事項を職掌する。

(教職員スタッフ)

- 第10条 教職員スタッフ 若干名は、学長、センター長、副センター長が協議の上、専任教員および職員の中から選考し、学長が委嘱する。
- 2 教職員スタッフは、学修支援の目的を達成するために必要な以下の業務を行う。
 - (1) センターが実施する事業の企画・実施・評価
 - (2) 各部署との連携
 - (3) 学生スタッフと連携した企画の立案・検討・実施
 - (4) センターの活動の周知に関する業務
 - (5) その他の必要な業務
 - 3 教職員スタッフの任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

(学生スタッフ)

- 第11条 学生スタッフ 若干名は、センター長、副センター長が協議の上、公募をし、応募した学生の中から選考する。
- 2 学生スタッフの公募は前期、後期ごとに行う。再応募はこれを妨げない。
 - 3 学生スタッフは学生の視点からセンターが実施することが望ましい企画を立

案し、提案、実施する。

- 4 学生スタッフは教職員スタッフと連携し、業務を遂行する。
- 5 学生スタッフの任期については原則半期とするが、継続して再応募し採用された場合は前期・後期とする。ただし、年度を超えた採用は行わない。

(センター会議)

- 第12条 センターの管理運営に関する具体的事項を審議するため、センターに学修支援センター会議(以下、センター会議)を置く。
- 2 センター会議は次の各号に掲げる者をもって構成する。
 - (1) 第5条に定めたセンター員
ただし、学生スタッフについては2名をオブザーバーとし、必要に応じて出席するものとする。
 - (2) その他、学生部長、保健室職員等、センター会議が必要と認めた部署からの出席者
 - 3 センター会議に議長を置き、センター長がその職にあたるものとする。
 - 4 議長はセンター会議を主宰する。
 - 5 議長に支障のあるときには副センター長がその職務を代行する。

(センター会議の議事等)

- 第13条 センター会議は委員の過半数の出席をもって成立するものとする。
- 2 センター会議の議事は出席委員の過半数をもって決し、可否同数の場合には、議長の決するところによる。
 - 3 センター会議が必要と認めた時には委員以外の者を出席させることができる。
 - 4 前条およびこの条に定めるものの他、センター会議の運営に必要な事項は、別に定める。
- 第14条 センターに関する事務は、各部署の協力を得て、専任職員等が行う。

(学生相談室)

- 第15条 第4条第1項2号に示した学生相談部門の第3条第1項4号の業務を遂行するために、部門内に学修支援センター学生相談部門学生相談室(以下、学生相談室)を置く。なお、学生相談室に係る諸事項については、学修支援センター学生相談部門学生相談室運用規程で別途定める。

(雑則)

- 第16条 本規程に定めるものの他、センターに関し必要な事項は別に定める。

附 則

1. この規程は、2015年4月1日から施行する。
2. この規程の改廃はセンター会議が先議し、教授会の議を経て、学長が決定する。
3. 2017年5月24日 一部改正

編集後記

リメディアル教育が大学の重点項目として定められ、学修支援センターでもその役割を果たすことが期待されています。2023年度は子ども教育学科の先生方のご協力もあり、国語・作文・英語について講座を設けることができました。一方、学生相談室の利用者にとっての居場所としての機能も、大切にしたい役割です。居心地のよい環境と両立できるよう今後も見守りたいと思います。

2024年4月 センター職員 山口普子

令和 6 年 5 月発行

学修支援センター報

第 10 号

編集・発行 仙台白百合女子大学 学修支援センター

〒981-3107 宮城県仙台市泉区本田町 6-1

電話 022-374-5073

HP: https://sendai-shirayuri.ac.jp/campuslife/learning_support.html